

呼吸器内科 初期研修プログラム

【研修責任者】 豊嶋 幹生

【一般目標】(G I O)

肺炎、気管支喘息、COPD、肺癌、関節性肺炎等でのびまん性肺疾患、さらに呼吸管理までを含む呼吸器疾患の診療と管理の基本的知識と臨床能力を身につけることを目標とする。主な呼吸器疾患の病態の理解、病歴聴取、診察、検査、鑑別診断、治療について、症例毎に検査計画、治療計画を立て、それに基づいて実際に診療を行い、その結果を評価し、次の診療ステップを組立てるといふ考えるプロセスをトレーニングする。単に、手技を身につけることを目標とするのではなく、多角的に病態を捉え、全人的な視点で診療ができるようになる。

【個別行動目標】(S B O s)

基本的手技

1. 胸部単純X線画像、胸部CT画像の基本的な読影法を修得する。
2. 血液・尿検査（必要性を説明することができ、結果を解釈できる）
3. 動脈血ガス分析（自分で実施し、結果を解釈できる）
4. 呼吸機能検査（適切な検査項目を指示し、結果を解釈できる）
5. 細菌学的検査
 - ・喀痰や他の臨床検体の採取（必要性を説明することができ、自分で実施する）
 - ・グラム染色（自分で実施し、結果を解釈できる）
6. 喀痰細胞診検査（必要性を説明することができ、結果を解釈できる）
7. 胸腔穿刺、胸腔チューブ挿入、胸腔チューブ抜去のタイミング・方法を修得する。
8. 気管支鏡検査の手順を理解し、介助ができるようになる。
9. 人工呼吸管理の基本原理を理解する。
10. 感染予防策（病原微生物別の感染予防策を理解し、自ら実施する）

経験すべき症状病態・疾患

1. 胸痛（原因の診断ができ、適切な治療法を修得する）
2. 咳・痰（原因の診断ができ、適切な治療法を修得する）
3. 呼吸困難（原因の診断ができ、適切な治療法を修得する）
4. 呼吸不全（原因・病態の診断ができる、適切な酸素療法や適切な人工呼吸管理を行うことができる、在宅酸素療法の導入を経験する）
5. 肺炎など呼吸器感染症（起因微生物推定、喀痰グラム染色の実施と解釈ができる適切な抗菌薬選択ができる）
6. 閉塞性肺疾患（画像及び呼吸機能の評価、薬物療法を理解し指示・処方する）
7. 間質性肺疾患（画像及び呼吸機能の評価ができる、気管支肺胞洗浄や組織学的検査の必要性の理解と結果の解釈、薬物療法を指示・処方する）
8. アレルギー性肺疾患（画像及び呼吸機能の評価、気管支肺胞洗浄や組織学的検査の必要

性の理解と結果の解釈、薬物療法を指示・処方する)

9. 気胸・胸膜炎など胸膜疾患（滲出液と漏出液の鑑別ができ原因の診断ができる、胸腔穿刺や胸腔ドレーン挿入を指導医の指導・監督のもと実施する）
10. 肺癌（臨床病期・組織学的診断に必要な検査の選択・指示ができ、適切な治療法を選択できる、放射線療法・抗癌剤の作用・副作用とその対策を理解する）
11. 医療関連感染症（医療関連感染症が起こる要因の理解と予防方法を修得する）

【方略】（L S）

1. 指導医・上級医とともに入院患者を受け持ち、診療を担当する。
2. 指導医・上級医の指導・監督のもと臨床医として必要な基本姿勢・態度を学び、呼吸分野の基本的知識、手技、治療法を修得する。
3. 毎日の病棟回診を指導医・上級医とともに行い、医療面接・身体診察・検査所見をもとに診療計画をディスカッションし、カルテに遅滞なく記載する。
4. 指導医・上級医とともに必要に応じて救急患者の診療にあたり、診断・治療法を修得する。
5. 週1回の呼吸器科カンファレンスにおいて担当患者のプレゼンテーションを行う。指導医からの基本的知識についての質問を受け、フィードバックを受け、知識・診療能力の向上に役立てる。
6. 呼吸器関連領域の研究会、学会に積極的に参加する。
経験した症例を日本内科学会、日本呼吸器学会などで、指導医・上級医の指導のもと学会発表を行う。

【研修評価】

1. 研修医による自己及び研修診療科および指導医評価：
研修プログラムに沿って、基本的手技・経験患者などについて評価する。
2. 看護師長による評価：
患者への対応、他職種とのコミュニケーション等について評価を行う。
3. 指導医による評価：
研修プログラムに沿って、基本的手技・経験患者などについて評価する。